

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

在宅ケアにおいて 何故IPWが重要なのか？

IPW: Inter-Professional Work

高齢者の特徴

1. 身体的特徴

- ① 典型的な症状がでにくい(症状・所見・経過)
食欲がない、立てない、歩けない、ボーとする(せん妄)、失禁など、
発症が非典型的 ⇒ 「元気がない」「食べない」「何となくいつもと違う」
- ② 多くの病気をもつ 治療のゴールが難しい QOL重視
- ③ 多くの薬を飲んでいる polypharmacyの問題
- ④ 基礎疾患をもとに病気を発生することが多い
多発性脳梗塞⇒嚥下障害⇒肺炎

2. 精神・心理的特徴

- ① 喪失体験 経済、居住、伴侶の死など、喪失によるストレスが増加
- ② 認知機能の低下が高頻度で起こる 自律の障害
- ③ 精神と身体が密接に関係

高齢者の特徴

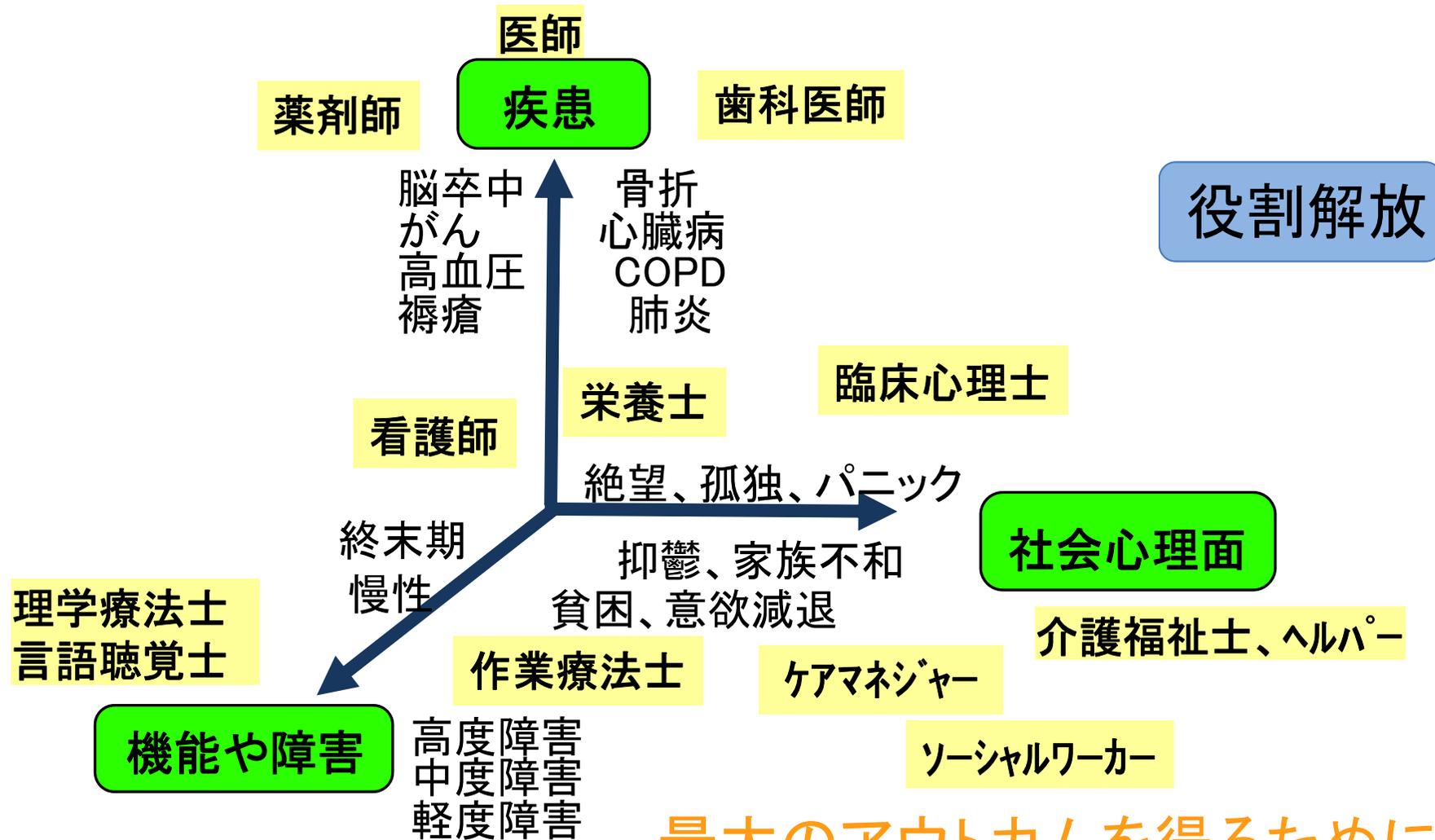
3. 機能的特徴

- ① 病気が慢性化しやすく、障害としてのこりやすい
病気が慢性化し易く、回復に時間がかかり、廃用性症候群を起し易い生活の障害が出現し、自立が損なわれ易い。
- ② 高齢者総合機能評価が有効
- ③ 個人差が大きい(病的か生理的か“老衰”)

4. 社会的特徴

- ① 貧困、虐待、独居、老老介護などの社会的問題を多く抱える
- ② リロケーションダメージを起こしやすい
なじみの場所、家や地域、住まいの課題

高齢者ケアの多面性とIPWの有効性



最大のアウトカムを得るためには
IPWが必要

Interdisciplinary careに関する 米国老年医学会の立場宣言(2000.1)

- 1 IDCは、複雑な併有疾患を有する高齢患者の多様なニーズに対応する。
- 2 IDCは、老年症候群に対する医療の過程と結果を改善する。
- 3 IDCは、医療システムの改善と介護者の負担軽減に寄与する。
- 4 IDCの研修と教育は、高齢者の医療ケアに当たる者に有効である。

チームとは？

◆ヘルスチームとは、

健康に関するコミュニティのニーズによって決定された**共通のゴール・目的**をもち、**ゴール達成**に向かってメンバー各自が**自己の能力と技能を発揮**し、かつ**他者のもつ機能と調整しながら寄与**していくグループである

(*Inter-professional work* における *Health Team* の定義; : WHO1984)

◆チームとは、

一致した共通の目標や規範をもち、**協同**で仕事をする**一団の人の事**を指す。

チームには、**明確な目標**、**リーダー**、そして**円滑なコミュニケーション**(五感と言葉を通して、「**思考**」と「**感情**」を共有するプロセス)が必要である。

Ruth Campbell, MSW, Turner Geriatric Clinic, University of Michigan Geriatrics Center.

今日の在宅ケアでIPWが必要な理由

1. 治療モデルから生活モデルへの転換

- 急性疾患から慢性疾患モデルへ
- 救命から、QOLを保ちながら生きるための支援
- 高齢者ケアや緩和ケアのニーズの増大

2. 多重問題ケースの増加

- 家族機能の低下(独居など)と家族の病理

3. 社会基盤の脆弱化

- ソーシャルネットワークの脆弱化
- 社会の軋轢の増加

4. 対人援助技術、組織、制度の複雑化

5. 労働力危機

老年病の分野で チームアプローチが推奨される積極的理由

- 1 高齢者と家族の医療的、社会的、心理的ニーズにより対応できるようになる。
- 2 高齢者の健康とQOLを向上する。
- 3 チームメンバーの知識と技能の分かち合いを増大する。
- 4 専門職、ボランティア、家族に対する認識と支援を増大する。
- 5 高齢者ケアに関わる仕事をより豊かで、楽しいものとする。

Ruth Campbell, MSW, Turner Geriatric Clinic, University of Michigan Geriatrics Center.

IPWが困難な理由

- 異なる目標
 - 治療モデル⇔生活モデル
 - 病態・機能・心理・生活
- 言語の違い(専門用語)
- 専門性の背景と分離した専門教育
 - IPEの普及
- 乏しいコミュニケーション
 - 顔の見える連携
- 専門職としての質の均一性の欠如
 - 専門職教育の充実
- 組織の違いや報酬のための競争

Audrey Leathard Going inter-professional: working together for health and welfare 1994を元に作成

まとめ

～IPW 7つの原則～

1. 利用者と介護者のニーズにフォーカスをあてる
2. サービス利用者と介護者を巻き込む
3. 共に学ぶこと、互いの専門性から、あるいは互いの専門性について学び合うことは専門性を強化する
4. お互いの専門性の誠実(高潔)と貢献を尊重する
5. 専門性の中の実践を強める
6. ケアの質を改善する
7. 専門職としての満足感を増加させる

7 principles CAIPE: The UK Centre for the Advancement of Interprofessional Education , 2001